

ばれっと

2011
11月
No.147

まだ*これ 合併号

●目次

- P2~3 地域に寄り添い復興支援活動を行うNPO
- P4~5 事務用ブース入居団体による震災復興支援活動~その3~
- P6 市民活動サポートセンターからのお知らせ

ともに、前へ！仙台

東日本大震災 特別号⑧

10月10日(月)、仙台市宮城野区の岡田西町仮設住宅で岡田西町復興まつりが開催されました。このお祭りは岡田西町仮設住宅自治会が企画しました。

お祭りのテーマは「復興は岡田西町から」。「地域住民交流の機会をつくりたい」「今まで地域を支えてきてくれたNPOやボランティアへの感謝を伝えたい」という想いや「これからの地域復興のために岡田西町が立ち上がる」という決意も込められています。そうした想いに応えようと、さまざまな支援団体との連携でつくられた岡田西町復興まつり。地域とNPO・ボランティアが手を取り合っ、お祭りは大盛況でした。



▲岡田西町復興まつりに登場した南蒲生太鼓。津波から復活した太鼓で子どもたちが元気に演奏してくれました。

東日本大震災 ～その時～

地域に寄り添い復興支援活動を行うNPO

今回ご紹介するのは仙台市宮城野区沿岸部にある「岡田地区」で活動を行う団体です。岡田地区は、地区内にある6つの町内会の結束が強く、PTAや子ども会などで岡田小学校を中心とした行事が多く行われる、住民同士のつながりが深い地域でした。



3月11日に東日本大震災が発生し、沿岸部に面していた地域の半分が津波により甚大な被害を受け、100人以上の方々が犠牲になりました。そして、津波により家が全壊した地域の住民の皆さんは、避難所生活を経て、3か所の仮設住宅と民間借り上げ仮設住宅などでの暮らしを余儀なくされています。

古くから大事にされてきた地域のつながりが分断されてしまった岡田地区。しかし、震災から半年以上が経過した現在、地域の住民の皆さんがNPOやボランティア団体とともに立ち上がり、地域のつながりを取り戻すための活動を続けています。

今回は、この岡田地区に寄り添いながら復興支援活動を行う2つの市民活動団体の代表者の方にお話を伺いました。

■がんばっぺ岡田の会

Q：岡田地区で復興支援活動を始めたきっかけは？

A：津波の被害で瓦礫が多々放置されている状態を見て「自分たちに出来ることはないか」と思い、スコップ片手に路上の泥の撤去など地元の清掃を行いました。最初は一人で作業していましたが、後に1人増え、2人増えと徐々に多くなってきました。そのとき「人のつながり」を強く感じ、地元のために行動しようと思いました。

Q：これまでの岡田地区で行った活動は？

A：岡田地区で行ったのは、次の2つのプロジェクトです。

①『岡田夏まつり』(8月13日／岡田小学校校庭)

がんばっぺ岡田の会は、企画運営・支援団体や地域との調整を行いました。数多くのNPOの協力で大成功に終わり、約1,500人の皆さまに会場いただきました。震災以降、離れ離れになっていた岡田の地域住民が一同に会する場をつくることができ良かったです。

②『岡田の福幸を願う音楽祭・岡田の風』

(10月22日／岡田小学校体育館)

NPO法人オハイエ・プロダクツと協働で企画・運営・演出を行いました。岡田出身者が演奏する、地域住民による地域住民のための手作りの音楽祭です。会場全体が音楽を通して一体となり、地域住民の岡田への想いが伝わってきました。

Q：地域に寄り添って活動していくうえで、工夫している点はどんなことですか。

A：岡田地域住民が主となって構成している団体なので、地域の中と地域外とのつなぎ役になるようにしています。自分たちに出来ることは限られているので足りない部分は、NPOや地域の方と交流を持ち、より多くの人に参加していただくようにしています。

Q：これまで岡田地区で活動してきた中で、うれしかったこと・やりがいを感じたことは？

A：活動をしていくうちに、集まってくる人、周りにいる人が笑顔になっていきます。最初は小さな笑顔でも人が集まり大きな笑顔につながっていくと感じたときや、企画の後「楽しかったよ、ありがとう」と伝えられる瞬間がとても嬉しく感じました。

Q：これからの活動予定、岡田地区の復興へ向けての取り組みを教えてください。

A：今後も様々な元気や笑顔を創れる企画を立案し、実行していきます。12月には、子どもたちのためのクリスマス会を計画中です。



▲がんばっぺ 岡田の会Tシャツ

がんばっぺ岡田の会

【代表者】 伊藤正敏

【連絡先】 TEL 080-1814-1047

【E-mail】 ganbappeokada@yahoo.co.jp

■NPO法人オハイエ・プロダクツ

Q：どのようにして、岡田地区で復興支援活動を始めることになったのですか。

A：当法人の復興支援活動のメインは、とっておきの音楽祭「こころ おうえん」キャラバンですが、やはり「こころ」をつかむのに腐心します。そのためにも当法人で復興支援のお手伝いをさせていただく場合は、必ず、まず現地の知人探しから始めます。基本的には、そこに住んでいる方か縁のある方と、その地域の事情などを知るために何度かお会いし、綿密に話し合い、お互いが納得したところから始めるようにします。今回も岡田ならではの事情や、何が求められているかなどをお聞きしました。

Q：これまでの岡田地区での活動内容は？

A：岡田地区では、次のようなプロジェクトを行いました。

①『落語会』

(7月13日／岡田西町仮設住宅集会所)

地元仙台で活躍している落語家が、方言を交え地元ネタ、東北の民謡などを披露。被災以来、「こんなに大きな声で笑ったのは初めて」とうれしい感想をいただきました。

②『岡田夏まつり』(8月13日／岡田小学校校庭)

ステージでのライブ、生演奏の盆踊りなどの企画・運営・音響で協力。とにかく来場して下さった皆さんに楽しんでいただきましたね。

③『すずめ踊り講習会』

(10月2日／岡田西町仮設住宅)

仙臺すずめ踊り連盟のご協力で開催。心も体も元気になってもらうために企画しました。最初は集会所内の予定でしたが、予想以上の多くの皆さんが参加して下さったので、青空の下で踊りました。

④『岡田西町復興まつり』

(10月10日／岡田西町仮設住宅)

全体の運営でお手伝いをさせていただきました。懐かしいオールデーズの演奏では、年齢が高い方たちもダンスと手拍子、かなり弾けた様子にこちら心ウキウキ。最後にほぼ全員で踊った、すずめ踊りは圧巻でした。こちらが元気をいただきました。

⑤『岡田の福幸を願う音楽祭・岡田の風』

(10月22日／岡田小学校体育館)

音響・演出などで協力。音楽が絆のチカラとなることを目撃。岡田の皆さんの力強いエネルギーに圧倒されつつ、皆さんの地元への思いがひしひしと伝わってきました。

Q：地域に寄り添って活動していくうえで、工夫している点はありますか？

A：今年で11回を迎えた、とっておきの音楽祭を共催している当法人では、「音楽のチカラ」が人々を元気にし、心と心を結ぶ絆のツールとなっていることを実感してきました。その経験を活かして、皆さんのお手伝いをしていますが、その地域の人々が何



▲音響で協力をするオハイエ・プロダクツのスタッフ

を望んでいるか、どんなことをしたら心が元気になるかを知ることが最も大切なことだと思います。そのために

は会合の場ばかりではなく、個人的にもお会いして、忌憚のない意見を出し合うようにしています。またイベント・祭りなどの非日常を企画・演出するプロとしてクオリティーを大事にし、参加した皆さんの日常でのエネルギーにもなるように心がけています。

Q：岡田地区で活動してきた中で、うれしかったこと・やりがいを感じたことは何ですか。

A：行くたびに、あちらこちらから声をかけていただくと、地元に戻ってきたような感じがします。皆さんの笑顔が見られるのが、なによりのご褒美です。「復興支援」という言葉とは関係なく、末永く、お付き合いしていただきたいと願っています。

Q：これからの活動予定、岡田地区の復興へ向けての取り組みを聞かせてください。

A：これまでは、特別なイベント、お祭りのお手伝いさせていただきましたが、お子さんからお年寄りまで参加できる定期的なワークショップを行ってきたいと考えています。それも、大きい目標を持ったワークショップです。楽しい目標があることは生きがいにもなりますので、岡田地区で代々伝わっていくようなものを、今、企画しています。でもまだ内緒です。

NPO法人オハイエ・プロダクツ

【代表者】 理事長 菊地昭典

【連絡先】 仙台市青葉区本町2丁目9-3

第3産伸ビル6階

TEL/FAX 022-716-5717

【E-mail】 ohaie2005@yahoo.co.jp

【ウェブサイト】

<http://www5b.biglobe.ne.jp/~totteoki/>

●●● 取材を終えて

震災以降、地域のつながりを保つためにはどうしたらよいかということが各地で模索されています。

今回ご紹介させていただいた2団体を通して、「地域住民が自ら地域づくりに参加できるようなサポート」が、地域のつながりを保ちつづけるには必要だと思いました。

(吉田 祐也)

■事務用フース入居団体による震災復興支援活動 ～その3～

NPO法人
POSSE
仙台支部

被災者の引越支援から見えてきた社会の課題

労働問題を中心に、若者の「働くこと」に関する様々な課題に取り組んでいるNPO法人POSSE 仙台支部（以下、POSSE仙台支部）。東日本大震災発生後は、被災地で被災者に寄り添った支援活動を行っています。支援活動を行うことになったきっかけと、これまでの活動について事務局の渡辺寛人さんにお話を伺いました。



▲POSSE仙台支部の
渡辺寛人さん

●困っている人の声を聞く

東日本大震災の発生後、POSSE仙台支部のメンバーは、活動拠点を仙台に置くNPOとして、「何かしなければ」という使命感を持ちながら、自分たちに何ができるのか模索していました。現地ではどのようなことが問題になっているのか、また、どのような支援が必要とされているのかを探るため、現地で取材をしている記者や支援団体に話を聞いて回りました。その中で、避難所から仮設住宅への引越に苦労している人が多いという現状が見えてきました。入居する仮設住宅が決まったにもかかわらず、自分では荷物を運べない、運搬手段がないなど、さまざまな事情から、入居できない被災者が少なからずいたのです。

POSSE仙台支部では、これまでも労働問題や貧困問題など、困っている人の声を聞く活動を地道に行ってきました。労働問題や貧困問題とテーマは違っても、被災して困っている人がいる以上、その声に応えようということで、5月から仙台市内の大学でボランティアを募集し、被災者の引越の手伝いを開始することにしました。



▲仮設住宅への
引越をお手伝い

●引越をきっかけに生まれる信頼関係

ボランティアセンターの紹介や、仮設住宅の入居説明会での告知の他、新聞などのメディアでも広報を行い、困っている人に情報を届ける努力をしました。その結果、これまでに引越を手伝った件数は100件以上。その半数以上は高齢者世帯や高齢者のいる世帯で、母子世帯や障がい者を抱えた世帯など

もありました。中には、震災前から苦しい生活を強いられていたと思われる方々もいて、仮設に入ったからといって、すぐに自立するのは難しい被災者の実情が、引越の手伝いを通して見えてきました。「引越を手伝う中で、被災した方々のお話を聞いているうちに、信頼関係が生まれてきます。引越が終わると、皆さん、また来てねと言ってくれるので、引越後もできるだけ定期的に顔を出すようにしています」と渡辺さん。定期的に顔を出しているうちに、「医療保険から外れてしまっている」などといった相談が寄せられたこともあったそうです。POSSE仙台支部では、労働相談の中で、一人では解決できないことや制度について知らないことと解決できないことについて、支援を行ってきました。医療保険については、まさに得意分野といえる相談で、すぐさま、国民健康保険の加入手続きのサポートを行ったそうです。

●日常を支援することを続けていきたい

また、引越の手伝いを通して仮設住宅の方々とながったことで、新たな活動も生まれています。引越の手伝いをした被災者やその周りの被災者など約200世帯に、生活の状況を尋ね、そこから見えてきたニーズに応じて、仮設住宅での送迎車の運行や、仮設住宅用縁台の作成・配布、被災した子どもの学習支援、制度活用支援など、生活に密着した支援を続けています。「POSSE仙台支部の被災地支援のコンセプトは、日常サポート型支援です。日常的に生活していくために必要な支援を継続的にしていきたいと考えています。月日の経過とともに、世間の関心は薄れていくかもしれませんが、仮設住宅の中には、より大変な状況の方々を取り残されていくことが予測されます。こうした方々こそ、本当に支援を必要としている人たちです。私たちは、少なくとも2年、必要であれば5年、10年と長期的に支援活動を継続していきたいと考えています」と渡辺さん。震災を通して、今まで社会の中に潜んでいた問題が浮き彫りになった今こそ、問題を提起し、社会を動かしていかなければならないと、精力的に活動を続けています。（太田 貴）

NPO法人POSSE仙台支部

【代表者】 甲斐谷 徹彰

【連絡先】 TEL 022-266-7630

【E-mail】 sendai@npoposse.jp

【ウェブサイト】 <http://blog.goo.ne.jp/sendai-posse>

広瀬川市民会議

いままでやってきたことを継続してやっていくことで復興へのメッセージを伝える！

広瀬川市民会議は、杜の都仙台のシンボルでもある広瀬川に、愛着と関心をもつ人なら誰でも気軽に参加できるゆるやかなネットワーク組織です。広瀬川の悠久の清流と仙台のまちづくりを、これまで培ってきた市民行政協働のパートナーシップを最大限に活用し、ボランティアな精神で自主的・主体的に参加する市民の皆さんで、次代につなぐことを目的に活動しています。



▲広瀬川市民会議の皆さん

●今、できることをやろう

東日本大震災は、海岸域の津波被害のみならず広瀬川流域の各地域でも大きな被害を出しました。当初、5月の大型連休に向けて広瀬川宮沢緑地で実施を予定していた「広瀬川で遊ぼう」の中止を決定していましたが、メンバーから「こんな時だからこそ私たちにできることをやろう！」「鯉のぼりだけでも飾ろう」という声が上がリ急遽実施することとなったそうです。ほぼ一ヶ月という短期間、しかも被災の中での実施準備ではありましたが、例年通りの内容で実施でき、多くの子どもたちに楽しんでもらうことができた行事となりました。

このような成果を上げることができたのは、多くのボランティアやブースでの様々なアトラクションのおかげでした。地元の永勘染工場の「宮城復興チャリティ前掛け」の販売や、短冊に復興への応援メッセージを書いての七夕かざりづくり、アートリバイバルコネクション東北の絵本プレゼントとサンディエゴからの復興メッセージへのお手紙紹介など、震災復興への思いが詰まった催しも多く、「子どもにえがおを みやぎに元気を」のキャッチフレーズどおりの場となったと思います。

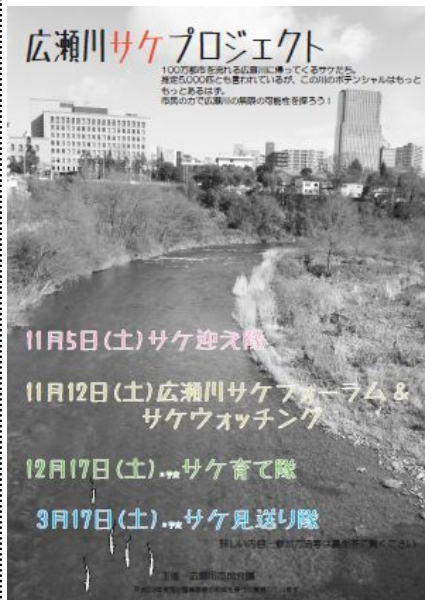
サポセン7階の事務用ブース入居団体による様々な震災復興活動をご紹介します。



▲多くの子どもたちでにぎわった「広瀬川で遊ぼう」

●「広瀬川サケプロジェクト」を通じて市民の力で広瀬川の無限の可能性を探る

同会では、9月10日にも様々に活動を継続していますが、これからは「広瀬・名取川にサケ1万匹を戻そう」（広瀬川サケプロジェクト）の実施をされます。11月5日（土）サケ迎え隊、11月12日（土）広瀬川サケフォーラム～広瀬川の魅力を求めて～&サケウォッチング、12月17日（土）サケ育て隊、平成24年3月17日（土）サケ見送り隊を予定されており、



多くの市民に川に遡上するサケの姿を見てもらって、その生態を学んだり川への関心を高めてもらい、目指すべき河川環境のあり方を一緒に探っていきたいとの思いを伝えて行きたいと考えておられるそうです。

(堀 隆一)

▲広瀬川サケプロジェクトのチラシ

広瀬川市民会議

【代表者】 会長理事 工藤秀也

【連絡先】 TEL 022-214-5512

FAX 022-268-4042 [No.159]

【E-mail】 hirosegawa_shiminkaigi@yahoo.co.jp

【ウェブサイト】

<http://hirosegawa-shiminkaigi.jimdo.com/>

市民活動サポートセンターからのお知らせ

■10月1日(土)から一般利用を再開しました。

○開館時間 平日/午前9時～午後10時
日祝/午前9時～午後6時

○申込受付の開始日

研修室：ご利用日の3ヶ月前から
セミナーホール：ご利用日の6ヶ月前から
市民活動シアター(全日)：ご利用日の6ヶ月前から
市民活動シアター(区分)：ご利用日の3ヶ月前から
市民活動シアター(時間)：ご利用日の1ヶ月前から

○受付時間 平日/午前9時～午後9時
日祝/午前9時～午後5時

※電話予約は、申込受付の開始日の午後2時から行います。

○休館日 毎月第2・第4水曜日、年末年始

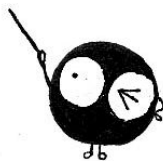
※当該日が祝日にあたる場合は、翌日木曜日が休館日となります。
※年末年始休館は12月29日～翌年1月3日です。

11月の休館日

第2水曜日 11/9

第4木曜日 11/24

※第4水曜日が祝日のため、翌日木曜日が休館日となります。



サポートセンターの建物は築20年以上経過し、施設内設備の点検や修繕に要する時間が増えてきております。施設内設備の点検、修繕のため、これまで月1回となっていた休館日を2011年9月より月2回とさせていただきます。

サポートセンターでは、利用者の皆さまに安心、安全にお使いいただけるよう今後も努めてまいりますので、何卒ご理解ご協力お願い申し上げます。

■10月1日(土)からシニア活動支援センターが再開しました。

○開館時間 平日/午前10時～午後8時
日祝/午前10時～午後6時

○休館日 毎週水曜日

シニア活動支援センターは、シニア世代の地域・社会参加活動を応援しています。お気軽にお問合わせください。

■シニア活動支援センターからのお知らせ

お役に立ちたいあなたのための、 サロン・交流会

シニア世代の復興支援や被災者支援の活動を紹介します。地域や社会での自分の活かし方や、参加の仕方を見つけてみませんか？

日時：2011年12月10日(土)

場所：仙台市市民活動サポートセンター 4階研修室5
参加費：500円

(ドリンク・お菓子をご用意いたします)

定員：20名(先着順・要予約)

申し込み先：仙台市シニア活動支援センター

TEL 022-217-3983 FAX 022-217-3984

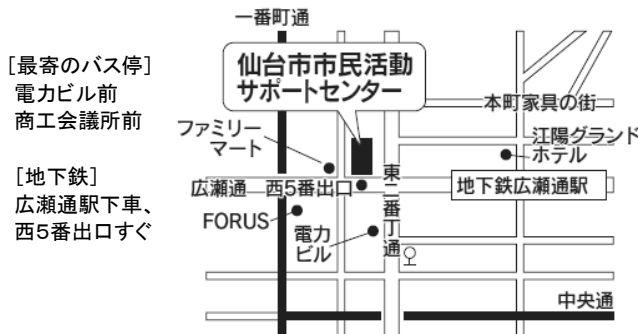
3月28日から9月30日まで、仙台市市民活動サポートセンターは、市民活動団体・NPO等の復興支援・まちづくり支援の拠点として、復興支援活動に取り組む市民活動団体・NPOにご利用いただきました。「復興支援活動団体利用受付シート」を提出いただいた団体数は、のべ308団体にのびりました。

これからも、ご要望に応じて、「サポセンかわら版」や「復興支援活動情報ブログ」へ、みなさまの活動情報を掲載いたします。ぜひ、情報をお寄せください。

●復興支援活動情報ブログ

<http://blog.canpan.info/fukkou/>

■案内図



■編集後記

サポートセンターでは、宮城野区、若林区など津波の被害があった地域で、地域とNPOをつなぐお手伝いをしています。今回は宮城野区での事例を紹介しました。次号では、若林区の事例を紹介する予定です。これからも、地域とNPOが復興へ向かって手を取り合っている現場の声を伝えていきたいと思っています。

(スタッフ一同)

発行：仙台市市民活動サポートセンター

〒980-0811 仙台市青葉区一番町四丁目1-3

TEL:022-212-3010 FAX:022-268-4042

ホームページ <http://www.sapo-sen.jp>

発行日：2011年11月11日

編集：特定非営利活動法人 せんだい・みやぎNPOセンター

編集人：小松州子 菅野祥子 太田貴 葛西淳子

仙台市市民活動サポートセンターは、特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンターが仙台市の指定管理者として、管理運営を行なっています。[指定管理期間：2010年4月1日～2015年3月31日]